

QUESTION

認知機能分野での機能性表示食品から、その次へ

カイク冬虫夏草の新展開について教えてください。

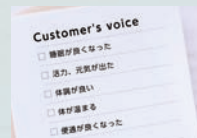
当社はかねてよりグループ会社のバイオクーン研究所とともに、カイクハナサナギタケ冬虫夏草(以下:カイク冬虫夏草)の研究開発を続けてきました。カイク冬虫夏草に含まれる有用成分「ナトリード®」には、中高年の認知機能の一部である視覚的な記憶力や認知機能速度の維持に役立つ機能が報告されています。この成分を含有する「快脳冬虫夏草®」を機能性表示食品として消費者庁へ届出、発売へと至りました。

さらに研究を進める中で、カイク冬虫夏草には認知機能の維持・改善のほかにも有用な機能を持つことが分かっ

てきました。男性機能と睡眠の質の改善です。きっかけとなったのは、カイク冬虫夏草を摂取されているお客さまからの声でした。毎日摂り続けるうちに、「あまりイライラしなくなった」「活力が生まれて意欲的に行動できるようになった」「朝までぐっすり眠れるようになった」などの感想が寄せられるようになったのです。あくまでも個人的に体感された感想ですが、同様の声が多いのは注目すべきことでした。

活力や意欲の増進、疲労回復、男性機能の向上に関する感想が多く聞かれたことから、それらに対するカイク冬虫夏草の作用に着目。研究の結果分かっ

てきたのは、排尿障害や勃起不全の要因のひとつとなる酵素PDE-Vを阻害する働きを持つ成分を含むこと。そしてカイク冬虫夏草を摂り続けることで、男性ホルモンと呼ばれるテストステロン濃度が男性・女性ともに上昇することでした。また睡眠についても、無作為化二重盲検プラセボ対照クロスオーバー比較試験の結果、プラセボの摂取と比較して「入眠と睡眠維持」が有意に改善しました。



「カイク冬虫夏草」を摂られている方の感想

QOLの向上と健康寿命の延伸に貢献

ANSWER

テストステロン増加と睡眠改善の作用に着目、研究中です!

テストステロンは男性機能に影響を及ぼすホルモンですが、低下すると意欲の低下や睡眠障害、生活習慣病やうつ症状などの誘因にも。それらのさまざまな症状は男性更年期障害、LOH症候群などと呼ばれ、社会的に大きく注目されるようになりました。テストステロンの低下は加齢というよりむしろストレスに起因するケースが多く、世代を問わず社会活動や企業活動の妨げとなり、生活の質も下がることになるからです。

泌尿器科やメンズヘルス外来での相談者が増えていることから、カイク冬虫夏草のテストステロン増加作用はとくに泌尿器科の先生方を中心に関心を

持っていただいています。さらに先生方の認知度を上げるために研究を進め、さまざまな機会を逃さず発表。ゆくゆくは「医師が薦めるサプリ」のような立ち位置を得られればと考えています。

もうひとつ目標としているのが、男性更年期や睡眠の質改善についての機能性表示食品の届出です。毎日の習慣として摂り続けることで、自らテストステロンを作り出す力を高めて生活の質を向上させる。睡眠時間の短さが認知症リスクにつながることから、良質な睡眠をとることで健康長寿に貢献。認知分野に比べて男性機能や睡眠の改善は効果を体感しやすいため、サプリ摂取

のリポートにもつながりそうです。

カイク冬虫夏草の新たな展開は、高齢化社会、ストレス社会を乗り切る一助となるものと考えます。社会的課題を解決し、困っている人たちの役に立ちたい。そうした想いのもと、有用成分の特定、明確な根拠となるエビデンスの集積に日々努めています。

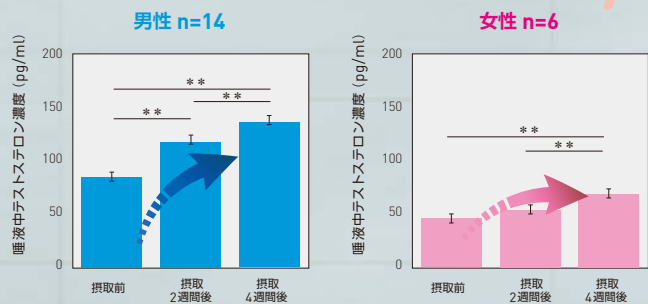


斉藤 大輔 ライフサイエンス本部 新規開発部 基礎研究グループ 组长

筋肉や骨を丈夫にしたり、認知機能を維持、メンタルを安定させるなどテストステロンは男女を問わず健康維持に大切です。



唾液中テストステロン濃度検査結果



「カイク冬虫夏草」の摂取により、男性・女性ともに、唾液中のテストステロン濃度が有意に増加した。

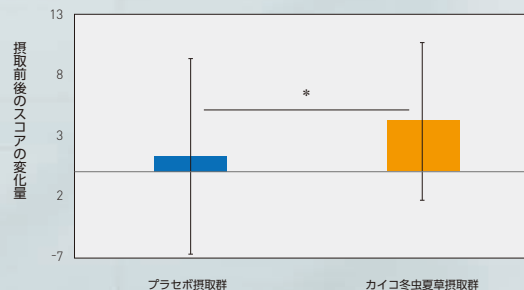
※雑誌「FOOD Style 21」2023年11月号 (Vol.27 No.11)に掲載された。

睡眠改善 臨床試験結果

試験デザイン:無作為化二重盲検プラセボ対照クロスオーバー比較試験
被験者:カイク冬虫夏草摂取群18名、プラセボ摂取群18名
試験期間:7週間(事前計測 1週→I期 2週→Wash out 2週→II期 2週)
評価方法:OSA睡眠調査票MA版



因子II (入眠と睡眠維持)



摂取前後のスコアの変化量

Table with 3 columns: Factor, Placebo, and Active Group. Rows include Factor I (Wake-up sleepiness), Factor II (Sleep and Sleep Maintenance), Factor III (Dreams), Factor IV (Fatigue recovery), and Factor V (Sleep duration).

*: P<0.05 (対プラセボ群), †: P<0.1 (対プラセボ群)

因子II (入眠と睡眠維持)において、カイク冬虫夏草摂取による有意な改善が示された。本試験に関する論文は、日本抗加齢医学会誌「アンチ・エイジング医学」に掲載された*。

*山本真史, 他. アンチエイジング医学, 19(5), 48-54